

報告 1 市民との意見交換の実施結果（中間報告）について

1. 実施概要

		各種団体との意見交換	市民ワークショップ
目的		第 5 章戦略プロジェクトについて、関係する団体の意見を把握する	八戸市のめざす姿の実現について、公募市民から提案を受ける
開催回数		5 回	全 4 回 (内訳 H26 : 2 回、H27 : 2 回)
日程	5 月	<p>①生業づくり戦略 日時：5 月 11 日(月) 18:30～20:00 場所：市庁別館 8 階 研修室</p> <p>②人づくり戦略 日時：5 月 14 日(木) 18:30～20:00 場所：市庁別館 8 階 研修室</p> <p>③安心づくり戦略 日時：5 月 18 日(月) 18:30～20:00 場所：市庁別館 8 階 研修室</p>	<p>③市のめざす姿の実現に向けて① 日時：5 月 17 日(日) 14:00～16:30 場所：八戸市公民館 2 階 会議室</p>
	6 月	<p>【第 8 回策定委員会】5 月 22 日(金) 13:00～14:00</p> <p>④魅力づくり戦略 日時：5 月 25 日(月) 18:30～20:00 場所：市庁別館 8 階 研修室</p> <p>⑤自治体経営戦略 日時：5 月 28 日(木) 18:30～20:00 場所：市庁別館 8 階 研修室</p>	<p>④市のめざす姿の実現に向けて② 日時：5 月 24 日(日) 14:00～16:30 場所：八戸市公民館 2 階 会議室</p> <p>【第 9 回策定委員会】6 月 10 日(水) 13:00～14:00</p>

2. 実施結果

(1) 各種団体との意見交換

結果概要

戦略	プロジェクト	主な意見
① 生業づくり戦略	1. 六次産業化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ワインや水産物などを県外へPRし、販売を行いたい。 ・漁業従事者の後継者育成などが必要である。 ・八戸港のブランド化に向けて、物流や資金の支援が必要である。
	2. 企業活性化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・企業数の増加に向けて、産学官の連携が重要である。 ・モノづくり技術をアピールした八戸港のブランド化を希望する。
	3. 雇用・企業促進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・地元での就職支援が必要である。 ・レジャー産業の誘致も積極的に希望する。 ・起業促進にあたっては、人脈や物流網、情報発信などがポイントとなる。
② 人づくり戦略	1. 子育てプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館などの既存施設活用が重要である。 ・父親の子育て受け入れ環境への対応が課題である（授乳室やサークルなど）。 ・産後ケアの充実が必要である。 ・八戸ブックスタート事業について、0歳、3歳、6歳など節目の時期にも行っても良いのではないかと。
	2. 教育プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士・保育所職員などの人材確保や質の向上が課題である。 ・家庭教育については、親との連携が重要である。
	3. 女性活躍プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーサポートに、高齢者参加の充実を図ってほしい。 ・女性を対象とした講習会などの充実が重要である。
③ 安心づくり戦略	1. 地域防災プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・各種団体との横のつながりの強化が重要である。 ・小学校での災害教育の充実が必要である。 ・いつ起こるか分からない災害に対して、夜間など様々なケースの避難訓練が必要である。 ・避難訓練へ参加しやすくするための工夫が必要である。
	2. 健康・福祉プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・専門人材の市外や県外への流出が課題である。 ・AEDなどの講習会の土日・祝日対応が必要である。 ・AEDの設置について、コンビニなどの24時間営業施設の活用が重要である。 ・認知症サポーターの公共施設への配置が重要である。

戦略	プロジェクト	主な意見
④ 魅力づくり戦略	1. アート・スポーツプロジェクト	(5月25日開催)
	2. 八戸ツーリズムプロジェクト	(5月25日開催)
	3. 中心市街地活性化プロジェクト	(5月25日開催)
⑤ 自治体経営戦略	1. 協働のまちづくりプロジェクト	(5月28日開催)
	2. 行財政改革プロジェクト	(5月25日開催)
	3. 広域拠点・連携プロジェクト	(5月25日開催)

対象者	六次産業化、中小企業活性化、雇用・企業促進	No.	1
会場	八戸市庁別館 8 階研修室	開催日	平成 27 年 5 月 11 日
出席者	参加団体 15 名 市関係課 6 名 事務局 9 名 計 30 名		
<p>■各団体からの意見</p> <p>1. 六次産業化</p> <p>①八戸市南郷新規作物研究会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧南郷村と旧八戸市が合併して 10 年が経過し、旧合併特例法に基づく地域自治区「南郷区」の設置が終了したため、南郷地域の振興に向けて、新たな節目を迎えている。 ・以前は、葉タバコの生産が盛んであったが、需要とともに生産量が減り、その代わりとして蕎麦の生産を開始したものの収益が少なく、生産量は伸び悩んでいる。 ・平成 26 年度から、八戸ワイン産業創出プロジェクト事業の取組を開始している。ワインができるのは 4 年後となるため、そこから勝負となる。 ・「農＝ぶどうを作る、加工＝ワインにする、経済＝流通」として事業計画を組んでいる。 ・ワインについては、新たな産業として地元でも期待（興味）度が高く、地元だけではなく、県外にも積極的に PR し、販売していきたい。 <p>②八戸みなと漁業協同組合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業従事者の経営改善、後継者育成が必須である。 ・漁船が老朽化しており、メンテナンス経費もかかる。そのため、行政からの補助金等の支援が必要である。 ・地元市場では安く取引されてしまうため、地元市場より 3 倍の値が付く東京など首都圏へ直売りを増やしていきたい（地元も大切だが値段的に厳しい現実がある）。 ・イカなどはできるだけ「活イカ」で出荷したいが、出荷量や流通面に課題がある。 ・今後も「活魚」として販売を強化していきたい。 <p>③八戸前沖さばブランド推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元飲食店でも、さばの新たな食べ方、料理方法などを発信している。 ・さばのブランド化としては、「仕掛け」、「協調性」、「生産者・市場・マスコミとの連携」が重要である。 			

2. 中小企業活性化

④八戸商工会議所

- ・商工会議所としては企業数の増加をひとつの目標として取り組んでいる。
- ・産学官の連携が重要である。また、融資（銀行）、補助金（行政）等により、企業活性化ができる環境を整備していくことが求められる。

⑤アイピー倶楽部

- ・当団体は、各事業所の活性化を目的に調査・コンサルティング等を行っている。
- ・具体的には、各事業所を訪問・ヒアリングし、課題の整理・解決のお手伝いをしている。例えば省力化を目指す場合はIT関係の業者を紹介するなど、各事業者が抱える課題に対して各種提案を行っている。

⑥八戸市企業誘致促進協議会

- ・企業を誘致する際、どのような分野の産業誘致が適しているかが大切である。立地（北東北、八戸港など）を生かした企業誘致が八戸では可能である。
- ・八戸のモノづくり技術を生かし、八戸港のブランド化を強化していきたい。そのためには物流面での支援や資金的な補助などが重要となってくる。
- ・行政でも企業誘致のプロジェクトを立ち上げ、人材交流、人材のコーディネートに取り組んで欲しい。

⑦八戸港国際物流拠点化推進協議会

- ・コンテナ物流は、震災直後、減少した経緯があるが、最近は伸びてきている（コンテナヤードを2年後には拡張予定）。
- ・ポートセールスを東京、名古屋で実施しており、今後も八戸港をPRしていきたい。
- ・補助金制度を活用して、取扱量を増やしていきたい。

3. 雇用・起業促進

⑧連合青森三八地域協議会

- ・「六次産業化」の意味を市民にわかりやすく伝え、周知を徹底する必要がある。
- ・若者が市外に流出しないよう、レジャー産業の誘致もお願いしたい。
- ・地元に戻り就職したい人も増えてきていると思う。そのため、企業誘致の推進が重要である。
- ・八戸市は駅から中心街まで離れているため、中心街まで人を移動させるような新たな取り組みが必要である。

⑨八戸学院大学「起業家養成講座」受講生

- ・アワビなどを地域から世界に発信していきたい（地消だけではなく、地産から世界に発信していくことが重要）。
- ・起業を通して、地域に良い影響を与え、人口減少（流出）問題の解決に貢献したい。
- ・起業促進の課題として、流通なども含めたネットワークや情報発信の環境基盤を作っていけるかがポイントとなる。
- ・起業するための相談窓口を充実（整備）していくことが重要。行政として窓口整備の強化も重要。
- ・また、産学官の連携が重要である。
- ・安心して起業に取り組めるよう、子育て支援の環境整備も必須である（保育所の整備など）。
- ・在宅でも就業できるような環境整備も必要である（出産率向上にもつながる）。
- ・南部町で自然栽培ふれあい塾を実施している。産学官（金）の連携で事業化させていきたいと考えており、銀行と連携して実施している。南部町でモデル化し、他地域へ波及させていきたい。
- ・栽培は自然栽培（農薬・化学肥料不使用）で生産し、一般との差別化（ブランド化）を図っていきたい。
- ・新規就農者に土地を貸してくれる人は多いが、事業として継続するには資金がいるなどの課題が多い。現在の国の補助制度は新規就農者の支援に対しては不十分な点が多いため、八戸市独自の農業体制や補助金などの支援プランを作りたい。

以上

対象者	子育て・教育・女性活躍	No.	2
会場	八戸市庁別館 8 階研修室	開催日	平成 27 年 5 月 14 日
出席者	参加団体 19 名 市関係課 5 名 事務局 8 名 計 32 名		

■各団体からの意見

1. 子育て

①NPO法人はちのへ未来ネット

- ・ 中心街の子育て支援施設に来ることができない人達のために、居住エリア近くの公民館でも利用できるように整備して欲しい。
- ・ 父親の子育てへの参加が多くなってきたが、授乳室やサークルなど男性が入りづらい環境になっているため、その部分の整備もお願いしたい。
- ・ 気軽に母親たちが集まれる場所としての公民館利用の充実を進めてもらいたい。
- ・ 公民館の利用を促進するため、受付時間や開館時間等の変更など、見直しも必要ではないか。
- ・ 現在、高校生ボランティアなどにも携わっているが、家庭教育の重要性を再認識していくことが必要だと思う。
- ・ 地域、子育てなど分野別ではなく、それぞれが連携し、輪となって考えていく必要がある。
- ・ 学童保育所は増えているが、なかなか入所できない現実がある。ただ施設を増やせば良いということではなく、職員数の充実も含めて質が問われる。安心できる学童保育を行っていくためにも、行政側で現状を把握して欲しい。
- ・ 産後ケアの充実が必要である。子育てについての情報や意見、アドバイスなどについて、先輩の母親や父親から気軽に話を聞いたりできる場があればよい（実際、親からもその様な要望の声が多い）。

②ひがし子育てひろば（東地区子育てサロン）

- ・ 地域の高齢者にも参加してもらい三世代交流を実施するなど、多くのイベントを行っている。
- ・ 男性スタッフが少ない、長続きしないという課題がある。そのため、行政でも男性を取り込んでいけるようなサポートをして欲しい。

③八戸市保育連合会

- ・ 保育園の職員の人材不足が課題である。
- ・ 受け入れ保育の基準変更に伴い、特に0歳児の幼児保育など、ハードルが上がったため、職員確保は必須課題である。
- ・ 八戸ブックスタート事業について、なぜ小学生が対象なのか理解できない。0歳、3歳、6歳など、節目の時期に行ってもよいのではないかと（幼少期に本の環境に馴染ませる）。

④八戸私立幼稚園協会

- ・兄弟が別々の保育園に入所している現実があるため（待機児童問題）、一緒の保育園に入れるように環境整備をして欲しい。
- ・幼児期の教育（スタートカリキュラム導入、小学校へのアプローチなど）を連携してできるような環境を整備し、八戸市でも是非、幼児教育の充実に取り組んでもらいたい。
- ・本の教育は今後も続けて欲しい（幼少期に親が読み聞かせをしてあげる行為の重要性）。
- ・女性が働ける環境整備に視点を置いて欲しい。

2. 教育

⑤八戸市連合父母と教師の会

- ・家庭教育が基本だと思うが、肝心な時に親がいない。親の教育も必要である。そのため、親との連携も重要課題といえる。
- ・最近、低学年児童のしつけに関する課題が目立つ。そのため、教員など1人に対して、アシスタントの人数を増やす必要があるのではないか。小学校に入学する以前、早い段階からサポートする必要があると思う。
- ・教育支援に関する市の人材バンクがあっても良いのではないか。地域の身近な人の紹介など。

⑥一般社団法人八戸市読書団体連合会

- ・出産可能な人口の推移はどのようになっているのか。親になれる人口は今後どう推移していくのかを分析することで、少子化対策は立てられるのではないか。
- ・女性が活躍できる体制、環境づくりを行政でも取り組んで欲しい。
- ・今後も八戸ブックスタート事業は続けて欲しいと思うが、親の質も問われる。親が言葉を教える（読み聞かせをしてあげる）ことが大切である。
- ・図書館を充実させて欲しい。例えば、学校の授業の中で、本に親しむ時間を作る、図書館見学などの図書館利用の教育なども実施して欲しい（教育委員会へも要望済）。

3. 女性活躍

⑦はちのへ男女共同参画推進ネットワーク

- ・地域と連携して活躍するファミリーサポート（育児や介護などについて助け合う仕組み）に、高齢者参加の充実を図って欲しい。
- ・地域活動を推進する事業を行政としても取り組んで欲しい。
- ・女性の人材育成は重要であるため、人生設計や教育の情報提供の場などを作って欲しい。
- ・地域で女性を支える政策の検討をして欲しい。

⑧はちのへウィメンズアクション

- ・女性を対象とした勉強会の充実が必要である。例えば、書類作成や各種申請などは、これまでの社会では男性が多く行ってきた業務のため、女性は知識不足である。
- ・会社での経験が豊富な男性の協力（教える側）が必須である。
- ・男性が子育てなどの現場に入る機会が増えてきたため、男性の子育てのための育休、産休など気軽に取得できるような環境整備を願いたい。
- ・50～60代の女性が地域で再就職できるよう、教育の場を作って欲しい。
- ・大学生など、最近はとりあえず就職できればいいということで、実際には自分にあった就職先、希望の就職先ではないことが多い。そのため、すぐ離職してしまったりするケースが目立つ。自分の人生設計を立てられるような教育（先輩からの社会の話、仕事についての姿勢など）やアドバイスをするなど、人材教育を充実させることが重要だと思う。

以上

対象者	地域災害、健康・福祉	No.	3
会場	八戸市庁別館 8 階研修室	開催日	平成 27 年 5 月 18 日
出席者	参加団体 12 名 市関係課 4 名 事務局 9 名 計 25 名		

■各団体からの意見

1. 地域防災

①災害ボランティアコーディネーター連絡協議会

- ・震災後 4 年経つが、担い手を増やせていない。これからどのように事業を進めていくかが課題である。会員数には変化はないものの、若い人に活動内容を理解してもらえていないのが現状である。
- ・市の社会福祉協議会などと、一緒に勉強会や事業を行う必要があると思う。
- ・各団体とネットワークを組んで活動することが理想だが、限界はある。その様な協力体制の部分で八戸市でもバックアップして欲しい。
- ・市民の災害に対する意識を教育していく必要があるのではないか。例えば、小中学生だけではなく、大人に対しても教育（勉強会など）していく必要がある。
- ・他組織との横のつながりが大切である。
- ・市と対話する機会があまりない。

②NPO法人青森県防災士会八戸支部

- ・小学校などで防災教育の出前授業を行っているが、全学年一斉に実施するスタイルである。低学年と高学年では教え方や理解度も異なるため、例えば 3 学年ほどに分けて（1～2 年生、3～4 年生、5～6 年生など）実施するのが理想だと思う。しかし、分けて実施すると、時間や講師料など学校側の負担も増すため難しい。
- ・老人クラブなど地域団体を対象とした活動実績は増えてきているが、避難訓練など毎回同じ団体が実施し、関係者ばかりの参加が目立つ。一般の人でも気軽に避難訓練ができるような工夫が必要である（例えば、景品をプレゼントする、ポイント制にするなど）。
- ・災害はいつ、どこで起こるか分からない。下校時や夜間の訓練も実施するなど、様々なパターンを想定した避難訓練も必要だと思う。
- ・避難所が本当に安全で安心な場所となりうるのか、設備点検、立地条件、避難道路の活用などについても意識することが重要。
- ・リーダー（代表）や同じ人ばかりではなく、多くの人が参加、発言できるような研修会を実施していく必要がある。実施曜日や時間なども考慮し、参加しやすい研修会の実施にむけ、改革が必要だと思う。

2. 健康・福祉

③八戸緩和ケアを考える会

- ・2010年から活動を開始し、90名ほど会員がいるが、意識アンケートを実施したところ、約7割の一般市人が緩和ケアについて、知らないというのが現状であった。そのため、より多くの人に緩和ケアについて理解してもらう必要があると思う。
- ・予算（会員会費）も少ない中で、講演会活動などにも限界があり、より多く実施していきたいが難しい。
- ・会員以外でも参加できる講習会などを実施していきたい。
- ・緩和ケアの専門病棟が市民病院にないため、看護学校の生徒が勉強した知識を生かし就職しようにもできず、県外へ就職してしまう（専門人材の流出）。
- ・講習会を実施しようにも、会場費が高い。また、ふさわしい会場（収容人数の限界など）がない。専門家や関係者を呼べるような学会、シンポジウムの実施、市民が学ぶ機会を増やせるような会場を作りたい。
- ・講習会の実施だけでは、緩和ケアの認知度が上がらないと思う。PR方法も工夫する必要があると感じている。
- ・対象者はどこに相談していいかわからない現状（認知度）があり、現在、自宅が会の窓口（電話）となっているため、きちんと窓口整備（事務局）をしていきたい。そのためにも、八戸市でも協力体制の強化に取り組んで、一緒になって考えていければと思っている。
- ・元気な高齢者が活躍できる仕組みづくりや雇用対策にも取り組んで欲しい。

④市民ボランティアサークル「いのちの輪」

- ・平成18年から活動を開始し、約10年経つが、AED普及活動自体はだいぶ増えたと思うが、会員数は開始時の40名程が現在半分の20名程になり、会員数をどう増やしていくかが今後の課題である。
- ・講習会は会社単位で行うものがほとんどで、毎回同じ所からの依頼が多い。新たな所（設置、講習会）にも声をかけてはいるが難しい。その理由として、AED自体が高価であり、その様な金銭的な部分が負担となっているのではないかと思う。
- ・AEDのメンテナンス費（実際使用した際には、設置者が負担しなければならない）や管理等が負担になっている場合がある。もっとPRし、操作方法も含めた講習会をより多く実施していきたい。
- ・多くの人にAEDを紹介する講習会や使用訓練を行いたい、消防・病院などの組織は土、日が休みで連携が難しい。休日でも訓練などが実施できるような体制をつくって欲しい。
- ・AEDの普及はしたが、管理の徹底には至っていない。
- ・コンビニなど24時間営業の場所に設置するなど、八戸市でも設置普及活動に取り組んでもらいたい。
- ・例えば、体育や保健体育などの学校授業の中でAEDの使い方訓練などを実施してはどうかと思うが、教育委員会との調整もあり、現実には難しい。本当は学習の積み重ねが重要で、子供の頃からの学習（しつけ）が大切だと思っている。

- ・八戸市はAEDの活用で命が助かった割合が日本一である。
- ・それぞれ活動している人は、「人を思いやる気持ち」が根本にあって活動しているのだと思う。そして地域には、まだまだ活動に興味のある人材がいると思う。そのようなマンパワーが集まり、勉強や講演会（集まり）ができるような会場や場所があれば、つながりが広がっていくと思うので是非、そういう場を整備して欲しい。

⑤公益社団法人認知症の人と家族の会青森県支部

- ・講習会など多く実施していきたいが、会場費負担が深刻な問題である。
- ・年代を越えて、認知症自体の理解を深める事が重要であり、今後も講習会などを行う予定ではあるが、参加をどう促すかも課題である。
- ・八戸市の担当課（部署）を越えて、相談窓口などのつながりを強化して欲しい。市民や関係者が連携していくことが大切で、そのための体制づくりの強化を求めたい。
- ・認知症サポーターが市役所にもいれば、安心できると思う。

⑥八戸地域介護支援専門員協議会

- ・災害時の安否確認など、今後、施設の職員で対応していけるか不安である。
- ・組織だけでは限界があり、事業所単位で支えるにも限界があるため、「守るにはどうするか」を各組織、部署など連携して考えていく必要がある。

以上

(2) 市民ワークショップ

【第3回】

- ・テーマ：市の目指す姿の実現に向けて①
- ・会場：八戸市公会堂文化ホール 2階会議室
- ・開催日時：平成27年5月17日 14:00～16:30
- ・出席者：一般公募市民15名 事務局9名 計24名

①安心づくり戦略

プロジェクト	具体策・事業	留意点・工夫点
1. 地域防災プロジェクト	<ul style="list-style-type: none">・防災無線の設置・災害訓練、防災訓練・施設の長寿命化、リノベーション・防災組織づくり・震災の記憶の風化防止・世代間交流の促進・活動団体への行政支援・避難路整備	<ul style="list-style-type: none">・施設の有効活用・情報発信の工夫・意識付けの方法・子供の見回り隊などによる気兼ねない仕組みが必要・普段から関わりあえるコミュニティが重要
2. 健康・福祉プロジェクト	<ul style="list-style-type: none">・関係機関の連携強化（行政、地域包括支援センター、介護支援センターなど）・ラジオ体操の促進・専門医療の確保・医療従事者の確保・意識啓発	<ul style="list-style-type: none">・医療機関の勤務形態の改善・健康に関する正しい知識を発信・健康寿命への意識・かかりつけ病院を持つ

②魅力づくり戦略

プロジェクト	具体策・事業	留意点・工夫点
1. アート・スポーツプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田んぼアートの誘致 ・ イベントの企画、実施 ・ PR、広報 ・ ツアー商品化 ・ 競技大会の誘致 ・ ファンクラブの設立 ・ スポーツ施設への公共交通の充実 ・ プロアスリートによる教室等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効果を把握する仕組み ・ 体制の見える化 ・ 資金の確保 ・ 市民ニーズの把握 ・ 景観を損ねる不要な看板等の撤去
2. 八戸ツーリズムプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブランドコンセプトの明確化 ・ 地域ストーリーづくり ・ 港湾の魅力発信 ・ 観光案内板の設置 ・ 映画ロケの誘致 ・ PR、広報 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討会の設置 ・ SNSによる発信、交流 ・ 観光資源の再整理（裏道などの魅力） ・ レンタカーの活用
3. 中心市街地活性化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き店舗の活用（デザイナーの起用） ・ 市街地への主要施設の集約（学校や企業） ・ 各種イベントの開催（スタンプラリー、宝探しゲーム、街コン） ・ 子供の習い事や部活等の送迎、見回り ・ 歩行空間の整備（バリアフリー化等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民ニーズの把握 ・ 自動車交通問題への対応

③自治体経営戦略

プロジェクト	具体策・事業	留意点・工夫点
1. 協働のまちづくりプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会等との協働 ・町内会への全戸加入の検討（条例化等） ・地域人材の育成 ・コミュニティデザインの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップなど市民が参加しやすい工夫が必要 ・世代間の連携・交流 ・公民館やコミュニティーセンター利用拡充
2. 行財政改革プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・公民連携（PPP）事業の推進 ・行政職員の人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と市民の通訳的民間のコーディネーター人材育成 ・市民の意見収集、パブコメの取り方の工夫
3. 広域拠点・連携プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の充実 ・観光圏的広域連携（NPOと自治体が共同で運営） 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会、まちづくり等の有効活用（民間企業、団体への職員派遣、人材交流）